

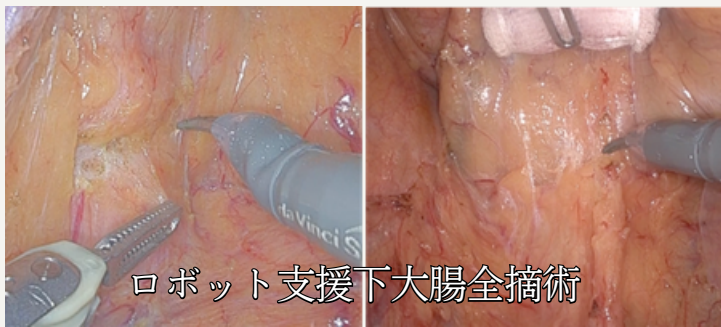
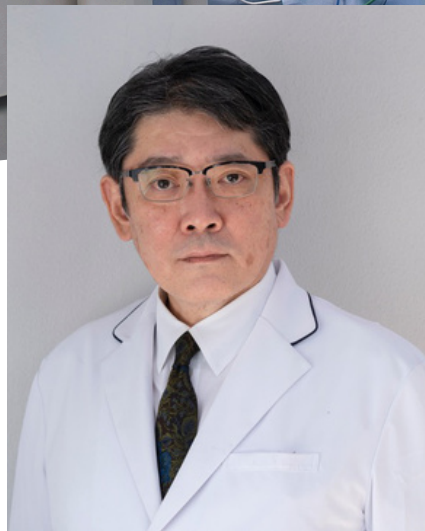
IBD 炎症性腸疾患の外科治療

院長付特任補佐兼消化器病センター長

中山 吾郎

日本外科学会：専門医・指導医
 日本消化器外科学会：専門医・指導医、評議員
 日本大腸肛門病学会：専門医・指導医、評議員
 日本炎症性腸疾患学会：専門医・指導医
 日本内視鏡外科学会：技術認定医
 日本内視鏡外科学会：ロボット支援手術認定プロクター
 日本ロボット外科学会：Robo-DocPilot認定医
 日本癌治療学会：代議員

名古屋記念病院は
 日本炎症性腸疾患学会
 指導施設に認定されました

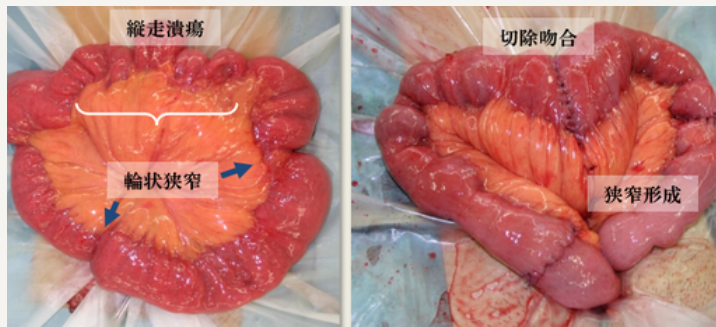


ロボット支援下大腸全摘術

潰瘍性大腸炎 —根治手術—

潰瘍性大腸炎は、大腸の粘膜に炎症が生じてびらんや潰瘍ができる原因不明の疾患で、厚生労働省から難病に指定されています。発症年齢は10～20歳代が多いとされていますが、近年高齢での発症も増えています。

薬物治療で効果が得られない場合や大腸癌を合併した際には大腸全摘が必要となることもあります。当院では大腸癌などにロボット支援手術を積極的に行っており、大腸全摘にもロボット支援手術を導入しています。



クローン病 —最小限の切除—

クローン病は、小腸や大腸などの消化管に炎症が生じて腸管が狭くなったり（狭窄）、他の臓器と交通を生じる（瘻孔）ことがある難治性の疾患です。また、肛門病変（痔瘻など）を高頻度に認める特徴もあります。

高度の狭窄や瘻孔病変を合併した場合には外科的治療が必要となります。手術は最小限の切除にとどめることが原則であり、病変をリセットした後に薬物治療で寛解状態を維持していきます。